伊豫國「あじの郷」づくり 2

誇りある歴史と豊富な地域資源を融合させたまちづくり

新伊予市のまちづくりとして具体的に動き始めた伊豫國「あじの郷」づくり。先月号に引き続き「伊豫國『あじの郷』づくり実行委員会」委員長の玉井彰さんにお話を伺います。

伊豫國「あじの郷」づくりをどのようにPRしていきますか？

現時点での、伊豫國「あじの郷」づくりの認知度は高いとはいえません。皆さんに関心を持っていただき、参加する人の輪を広げるために、親しみやすいキャラクターやPRアイテムを作成する予定です。

「なんだかおもしろそうだな」ということがきっかけとなり、多くの人に関心を持っていただければ、まちづくりが一歩も二歩も前進するでしょう。

具体的な形は、これから実行委員会で議論して決めていきます。

このまちづくりは、実行委員会だけが行うのではなく、市民の皆さん全員に参加していただきたいと思います。そのことを確認する目印としてのアイテムを作りたいと考えています。

実行委員長としての抱負を聞かせてください。

せっかく1市2町が一緒になったのだから、合併して良かったといえる伊予市にしたいものです。「あじの郷」づくりによって新市が一体感を持てば、市民として幸せです。

伊予市には、「食」について生産・流通・販売の各分野でがんばっている方がたくさんいます。また「食育」に関する領域では、教育関係者の協力が不可欠です。そのほかの分野にも「食」や「食育」、まちづくりに関心のある方がいます。

そういった方々が緊密に連携し、協力すれば、これまでにない前向きな変化が生まれてくるのではないでしょうか。そのためのネットワークをつくりたいと考えます。

実行委員会は、その活動が触媒となり、「あじ」や「食」、「食育」に関してさまざまなアイデアや企画が行き交う、基礎・土台のような存在になることが理想です。

この企画には、市職員も関わっています。これからの地方自治では、公務員だけが公務を担うのではなく、市民も参画して、共に公務を担うことになるでしょう。市職員の市民としての側面も重要になってきます。市民と職員が志を一つにして、特色ある伊予市、誇りを持てる郷（くに）づくりを行いたいと思います。

伊豫國「あじの郷」づくり実行委員会には、市民と行政の協働による本格的自治を目指すうえで、その先駆けとして、あるいは試行錯誤の場としての意義があるのではないでしょうか。